

## ラテラルリティについて

小嶋祥三

ヒトのラテラルリティに興味を持っていた。その興味は左右の脳の構造や機能の非対称から来たが、それがヒト化（ホミニゼーション）と関わると思ったからである。ヒトと他の動物を分けるものはいろいろある。直立二足歩行は別格として、言語、道具使用などである（他にもいろいろあるだろう）。言語と道具は左半球が主に関係する。失語は言語の障害だが左半球の損傷で起こり、失行のうち観念運動失行は慣習的動作、単一の物品（道具）使用、模倣の障害、観念失行は物品（道具）の系列的使用の障害で、やはり左半球の損傷で起こる。これらの行動の原初的なものが類人猿でみられたとの報告があり大騒ぎするが、進化を考えれば、とくに驚くに当たらない。それはともかく、ヒト化の過程で、これらの行動は他の動物とは比較にならないほど発達した。言い換えると、他の霊長類と異なり、ヒトはこれらの機能の左半球優位を著しく発達させたサルといえる。

やはり、他の霊長類と異なり、ヒトの利き手は大幅且つ明確に右に偏っている。すなわち、これも左半球優位である。わたしも右利きだが、ここでの主題は利き手ではない。日頃自分が経験している、他の行動に見られるラテラルリティについてである。どうも他の多くの人と逆なのだ。例えば、ベルト。ズボンにはベルトを通すベルトループ（というのですね）がついている。ここにベルトを通す時、わたしは右腹の方から通していく。したがって、ベルトの先端は左の腹側からバックルにはいることになる。これで何の支障もないのだが、ある時バックルの文字が上下逆転しているのに気がついた。対面する人は逆転した文字を末尾から読むことになる（普通、そうはしません）。それで分かったのは、どうやら、わたしは他の人とベルトを通す向きが反対だということだった。尾錠止めのピンをベルトの穴に通す時には、左手でベルトを引っ張る。わたしは箸も鉛筆も右だが、左利きが入っているのだろうか。

もう一つ気になったのは、自転車に乗る時、右側から乗るか、左側から乗るかである。わたしは右側から乗るが、多くの方は左から乗るようだ。わたしは右足を右ペダルに乗せ、左足で地面を蹴る。これまた、これでとくに支障はないのだが、問題はスタンドの位置で、一般に後輪の左側にある。それゆえ、自転車を降りたら（これも当然右側から降りる）、車体が倒れないように支えつつ、後輪の後ろを回って、スタンドを接地させることになる。面倒で仕方ない。わたしはボールを右足で蹴るので、右が利き足？で左が軸足である。幅跳び、高跳びの踏切は左足である。おそらく、これは多くの人と一致していると思う。では、何故右から乗るようになったのか。小学校低学年で自転車に乗れるようになったが、まだラテラルリティが十分に発達する前に、たまたま右から乗る練習をして、それが固定してしまったのだろうか。よく分らない。

なお、わたしは左手でもある程度ボールを投げられるので（少し練習をしたが）、もともと左利きが入っているのかもしれない。